

感染症発生動向調査委員会報告 5月

《今月のトピックス》

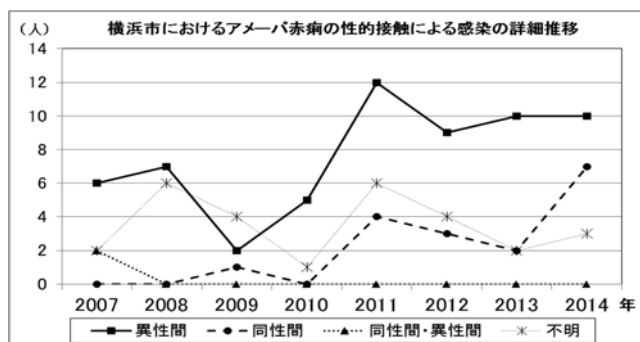
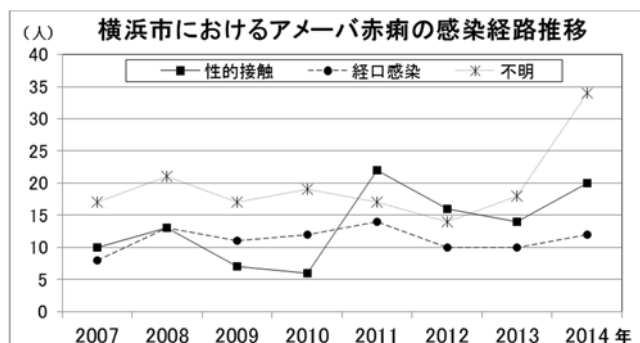
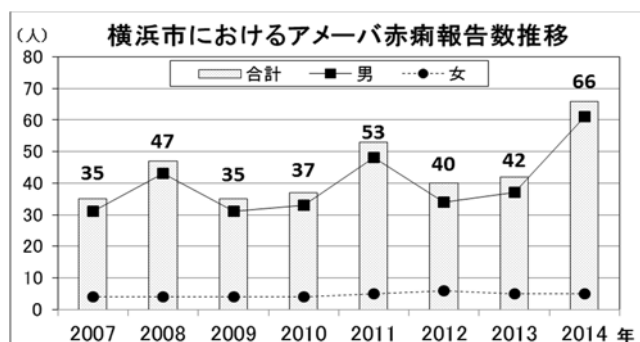
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が多くなっています。
- 夏季に流行する感染症(腸管出血性大腸菌感染症、咽頭結膜熱、手足口病等)に注意しましょう。

全数把握の対象

【5月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	3件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
A型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
マラリア	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	15件
レジオネラ症	3件	水痘(入院例に限る)	2件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	9件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件		

- 腸管出血性大腸菌感染症:**3件(O157VT1VT2 1件、O157VT2 1件、O18VT1 1件)の報告がありましたが、感染原因が特定されたものではありませんでした。本疾患はこれから夏にかけて例年報告数が増加するため注意が必要です。
- A型肝炎:**1件の報告がありました。国内での経口感染が推定されていますが感染経路等不明です。
- マラリア:**熱帯熱マラリアの報告が1件あり、渡航先(ガーナ)での感染が推定されています。
- レジオネラ症:**肺炎型3件の報告がありましたが、それぞれ明確な感染経路等は不明です。
- アメーバ赤痢:**腸管アメーバ症3件、腸管外アメーバ症1件の報告がありました。そのうち1件では国内での同性間性的接触による感染が推定されており、1件は香港での経口性的接触による感染、残る2件は感染経路感染地域等不明でした。横浜市ではアメーバ赤痢の報告数が漸増傾向です。最近の感染経路では性的接触が経口感染を上回っており、性的接触では異性間が同性間を上回っています。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:**3件の報告がありましたが、院内集団感染等は確認できませんでした。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):**AIDS 3件、その他1件の報告がありました。そのうち2件は国内での同性間性的接触、1件は国内での異性間性的接触による感染、残る1件は異性間性的接触による感染で、感染地域は不明でした。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症:**70歳代の報告が1件ありました。予防接種歴はありませんでした。
- 侵襲性肺炎球菌感染症:**15件(70歳代以上6件、60歳代2件、50歳代1件、40歳代3件、乳幼児3件)の報告がありました。そのうち乳幼児では全例予防接種歴がありましたが、成人例ではすべて予防接種歴が確認できませんでした。



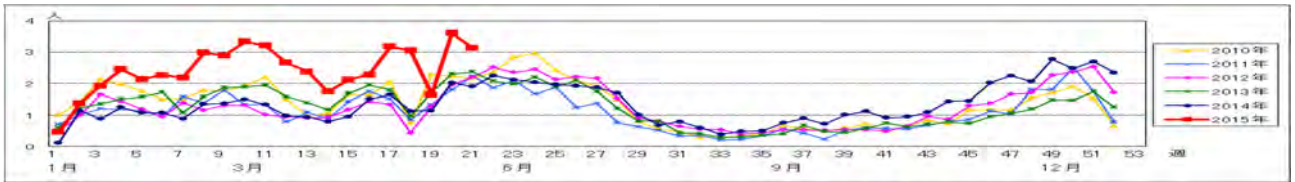
10 水痘(入院例に限る):80歳代(予防接種歴不明)の届出が1件、学童(予防接種歴1回あり)の届出が1件ありました。どちらも臨床診断例です。

11 梅毒:早期顕症梅毒Ⅱ期が4件、早期顕症梅毒Ⅰ期が4件、無症候期が1件の報告がありました。すべて国内での性的接触による感染が推定されており、異性間が5件、同性間が3件、不明1件でした。梅毒は全国的に増加しており、厚生労働省では注意喚起のために「[梅毒に関するQ&A](#)」をホームページに掲載しています。

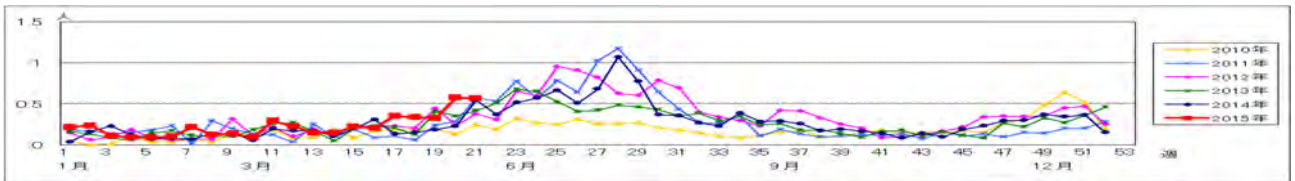
定点把握の対象

平成27年 週一月日対応表	
第17週	4月20日～4月26日
第18週	4月27日～5月 3日
第19週	5月 4日～5月10日
第20週	5月11日～5月17日
第21週	5月18日～5月24日

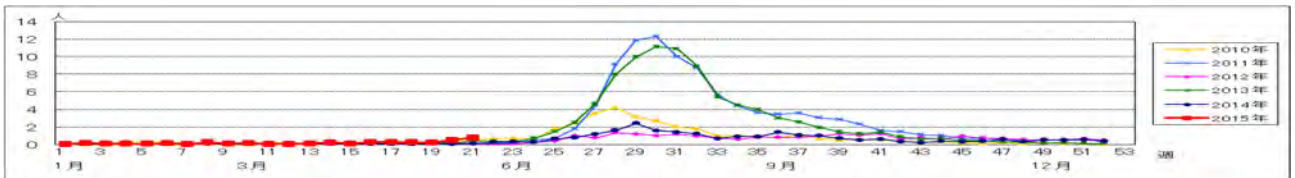
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:第21週は市全体で定点あたり3.13と、例年の同時期と比べて報告が多くなっています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は学童期の小児に多い疾患です。合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を生ずることもあり、注意が必要です。



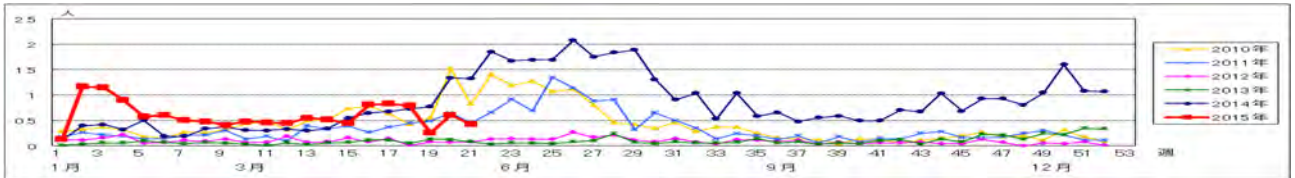
2 咽頭結膜熱:第21週は市全体で定点あたり0.56と増加傾向です。本市では例年6月～7月にかけて報告のピークを迎えるので今後の注意が必要です。感染経路は、プールを介した場合には、汚染した水から結膜への直接侵入と考えられています。また、プールでのアウトブレイクの調査結果からは、タオルを共用したことが感染のリスクを高めたとの報告もあります。それ以外では通常飛沫感染、あるいは手指を介した接触感染であり、結膜あるいは上気道からの感染です。



3 手足口病:まだ報告数は多くありませんが、夏季に流行する疾患であり、第19週0.21、第20週0.49、第21週0.79と、少しずつ報告数が増えています。



4 伝染性紅斑:第21週は市全体で定点あたり0.43と低下傾向です。



5 性感染症:4月は、性器クラミジア感染症は男性が22件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が7件です。尖圭コンジローマは男性4件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が7件、女性が2件でした。

6 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎は第17週0.25、第18週1.00、第19週1.25、第20週0.00、第21週1.00となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は、第17週1.00、第18週0.67、第19週0.50、第20週0.33、第21週0.00となっています。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

7 基幹定点月報:4月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症15件、薬剤耐性緑膿菌感染症1件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

5月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点35件、眼科定点5件、基幹定点5件でした。

6月8日現在、ウイルス分離10株と各種ウイルス遺伝子17件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(5月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	アデノ感染症 ^{*1}	胃腸炎	手足口病	急性出血性結膜炎	耳下腺炎	伝染性紅斑
アデノ NT	3							
アデノ 1型	1							
アデノ 4型			1			1		
インフルエンザ B/山形	2							
パラインフルエンザ 1型		1						
パラインフルエンザ 2型	1	1						
パラインフルエンザ 3型	1							
コクサッキー A16型					4			
パレコ 1型				1				
ヒトメタニューモ		2						
ムンプス							1	
B19								1
ヒトボカ	1	1						
ライノ	2	2						
合計	3	0	1	0	4	1	1	0
	8	7	0	1	0	0	0	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数、NT:未同定、*1 咽頭結膜熱を含む

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

5月の感染性胃腸炎関係の受付は、小児科定点から1件、基幹定点から1件、その他が5件で、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT&2、O157:H-,VT1&2)が2件、腸管毒素原性大腸菌(O6:H16,LT)が1件、カンピロバクターが2件検出されました。

その他の感染症は小児科から9件、基幹定点から3件、その他が23件でした。A群溶血性レンサ球菌のT型別不能のうち1件は劇症型レンサ球菌感染症の患者から検出されました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(5月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	5月			2015年1月～5月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	1	1	5	1	47	20
菌種名						
赤痢菌						1
腸管出血性大腸菌			2			7
腸管毒素原性大腸菌		1			1	
チフス菌						1
パラチフスA菌						4
サルモネラ					33	1
カンピロバクター			2			2
コレラ菌						1
不検出	1	0	1	1	13	3

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	5月			2015年1月～5月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	9	3	23	23	21	263
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1			3		4
	T4	1		4		
	T12			1		
	T28			2		3
	型別不能	6	1	11		2
G群溶血性レンサ球菌						4
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			2		7	24
バンコマイシン耐性腸球菌					1	1
<i>Legionella pneumophila</i>						2
インフルエンザ菌						1
肺炎球菌			14		1	53
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
結核菌						132
百日咳					1	1
その他		2	2		9	11
不検出	2	1	4	2	2	23

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】